

養老線地域公共交通再生協議会議事概要

項目	内容
会 議 名	令和8年度養老線地域公共交通再生協議会第1回会議
と き	令和8年5月18日（月） 13:00～15:00
と こ ろ	クインテッサホテル大垣
出 席 者	委 員 40名 オブザーバー 2名 事 務 局 3名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 協議事項 議第1号 令和7年度養老線地域公共交通再生協議会事業報告（案）について 議第2号 令和7年度養老線地域公共交通再生協議会収支決算（案）について 議第3号 令和8年度養老線地域公共交通再生協議会役員改選（案）について 議第4号 養老線地域公共交通計画（素案）について 養老線交通圏地域公共交通計画素案 4 そ の 他 (1) 養老線交通圏地域公共交通再生協議会 委員等名簿の変更（案）について (2) 今後の日程について 5 閉 会
会議内容	1 開 会 2 あいさつ 養老線地域公共交通再生協議会 会長 大垣市長 石田 仁 内容（略）

項目	内容
	3 議 題 (進行：石田会長) 議第1号 令和7年度養老線地域公共交通再生協議会事業報告(案)について 資料No. 1 議第2号 令和7年度養老線地域公共交通再生協議会収支決算(案)について 資料No. 2 議第3号 令和8年度養老線地域公共交通再生協議会役員改選(案)について 資料No. 3 議第4号 養老線交通圏地域公共交通計画(素案)について 資料No. 4 - 1 養老線交通圏地域公共交通計画素案 資料No. 4 - 2 【説明】 ・ 議題1号 資料No. 1、議題2号 資料No. 2、議題3号 資料No. 3、 議題4号 資料No. 4 - 1 資料No. 4 - 2 (事務局) 4 そ の 他 (1)養老線交通圏地域公共交再生協議会 委員等名簿の変更(案)について 資料No. 5 (2)今後の日程について 資料No. 6 【説明】 ・ 資料No.5、資料No. 6 (事務局) 5 閉 会 ●協議結果 →全ての議題について、原案のとおり承認

項目	内容
	【主な発言】 ・ 会長 石田大垣市長 本計画の目指す将来像を実現するためには、行政、交通事業者、地域関係者が一体となった協働による取り組みが必要。近鉄から上下分離し養老鉄道を発足して20年、各市町が努力を続けコロナ禍等の大変な状況下を乗り越えてきた状況の中で、新たな乗客や利用目的を発掘していかなければならない。全国規模で見て、600万人を運ぶ地方交通機関は例を見ず、進み方次第で全国の鉄道のあり方が変わってくると国から言われた。その自負を持って、市町民にしっかり説明していかなければならない。単なる交通手段ではなく、ひとつの文化として、まちづくりの核として、企業等の協力をいただきなら各市町に駅を中心としたまちづくりの計画を作っていただいている。市民への説明はハードルが高いが、接続しているJRや近鉄を核としてバスやタクシー等も含め、更なるまちづくりに励みやりきらなければならない。 ・ 岐阜協立大学 竹内教授 養老線は高校生の利用も多く、人口減少の前に少子化の影響が先に出てくるが、利用者数維持に見合う施策でまとめられている。「乗って残そう」ではなく、養老線利用が合理的で日常において便利であるというのが本来のあるべき形。そのために、駅周辺に自然に利用促進する公共的な要素や民間の投資によって利用促進されるのが好ましく、未来の地域社会の形として必要。深刻な運転手不足等からバス代替は難しいと思うので、鉄道を維持していくために関係者の皆様には積極的に参画いただきたい。 ・ 名城大学 松本教授 ネット社会の影響もあり、特に若者が出歩かなくなってきており、人口と共にトリップ数も減少している中で、大都市圏では車の分担率は減少しており、今後地方にも普及していくと思う。増減両方の要素がある中で利用増加は描きづらいが、公共交通はサービス向上が一番重要だと思う。それが方針1にしっかり記載されており、駅周辺を整備しながら各自治体が二次交通をしっかり支え、交通事業者と皆と共に連携していく、全方位的な素晴らしい計画になっている。人口減少と空き家増加の中、コンパクトなまちにしていきながら、鉄道を中心に移動している社会を頭の中で描いていくのが大事で、それを描ける計画になっているので、各自治体と住民で共有して実現に向けて努力していくことが何より大事。

項目	内容
	・ 中部運輸局交通政策部 江川交通企画課長 まちづくりという広い概念の中に養老線という大きな公共交通が溶け込んでいる。個人的に、住民や学生だけでなく企業や来訪者等、養老線を基軸にあらゆる人を地域に呼び込み盛り上げていくのは、人を中心にした決意表明のように感じ、「人をむすび」という将来像のプランニングが気に入った。会議で得た様々な意見を上手く拾っており、色々な要素が入っている。今後、計画として文章が確立されてからがスタートになる。会議で皆の意見を聞きながら、10年という長い期間を進んでいっていただきたい。 ・ 中部運輸局三重運輸支局 森主席運輸企画専門官 4つの方針はどれも大事な取り組みである。広域の市町が絡んでおり、事業報告も大事だが今年度は効果を説明いただき、関係者で協議して行っていきたい。ワークショップ等で若い学生が計画に関わっているのは素晴らしい。人口減少もあるので、今後はインバウンドも含めて利用者を伸ばしていきたい。公共交通の担い手確保は、他市町の公務員宿舍を運転手へ貸渡すことや、退職した消防局員の再任用や、外国人の特定技能講習受講者等、工夫した取り組みを皆で知恵を出して活用いただきたい。 ・ 岐阜県都市建設部リニア未来都市局 川口交通企画監 「人をむすび」というワーディングは大変気に入っている。ローカル線は暗い雰囲気がある中で、新駅設置という明るい話題が目にと留まる。3年かけて何らか調整をして2029年に新駅設置と読み取れるが、こういった構想があるか教えていただきたい。 ・ 事務局【回答】 新規利用者が見込まれる地域をピックアップし、設置数等を検討している。様々な調整が必要になるので、内容が決まり次第発表する。 ・ 養老鉄道応援団 高橋氏 現在、東京大学の四年生で1年休学して地元に戻ってきております。池野駅の霞溪舎を拠点に養老鉄道応援団として活動しております。月1回池野駅の清掃活動や、帰省月に霞溪舎で子供を対象としたプラレール運転会という企画を行っており、昨日も町内の中学生を中心に合計20名が清掃活動に参加し、午後にご家族連れで合計50名の方に参加いただきました。大垣から電車を利用して参加いただいた方もいらっしゃるの養老鉄道の利用促進に多少は貢献できているかと思っております。昨年度、共創部会のワークショップで高校生向けファシリテーターを担当させていただき、今年もワークショップや高校との連携

項目	内容
	というところで、大垣市・養老町それぞれ1校ずつ探究学習に入らせていただきまして、年末をめどに高校生主体の駅前イベントを企画しております。 ワークショップのアウトプットにもあった養老鉄道合同文化祭を12月めどに、養老鉄道応援団が池野駅、大垣南高校が大外羽駅、現在調整中ですが大垣養老高校も養老町内の駅で駅前イベントを同日開催する形で実施できればと思っております。若本を主体にしたローカル線を盛り上げるという活動を若者主体で発信できたらと思いますので、よろしくお願いいたします。 ・養老鉄道㈱ 宗藤代表取締役社長 600万人利用のある養老鉄道が存続できるかが日本全国のローカル鉄道の運命に関わっているという話を身の引き締まる思いで伺った。第二種鉄道事業者としての責任をしっかりと果たしていきたい。養老線の利用者数は前年から8万人増で約591万人という結果で、コロナ前の96%まで回復した。11年後にこの利用者を維持していくのは容易ではないと思っている。できれば一旦600万人越えまで増やし、多少減っても591万人が達成できるようにと考えている。内訳は、就業人口の減少が続いているため通勤定期は減っているが、通学定期は高校生を中心に売行きが堅調で、若干だが増えている。一番増えたのは定期外利用で、外国人の利用が非常に目につく状況で、前年比4.2%増で全体の利用者増に大きく寄与していると分析している。 直近に実施した取組みの1点目は、高校入試受験生無料キャンペーン。入学後に通学手段に選んでいただけるように岐阜県、三重県の公立高校入試日に受験票を所持している中学生を対象に無賃利用キャンペーンを実施した。行きは両親の送迎も多かったようだが、帰りは一定の利用があった。本年度以降も継続して取り組んでいく。2点目は、毎年恒例で実施している「ようてつ祭り」の4月29日と5月5日の2回、大人同伴に限り子供運賃の無料キャンペーンを行い、前年比プラス30%の2,450名の方に来場いただき、大変にぎわった。入口でアンケートを実施し、桑名駅からの利用者が一定数あり、このキャンペーンも好走し家族揃って参加いただけたかと思う。今後も広い方々に利用いただけるよう取り組んでいく。 ・樽見鉄道㈱ 今村取締役統括部長 今回の計画は大変勉強になった。将来像イメージ図には樽見鉄道も記載いただきありがたい。樽見鉄道は現在の補助では経営が難しくなるので、昨年度2月からみなし上下分離への事業構造変更へ向けて勉強会を進めている。事業者としても、鉄道の再構築事業となるよう指導いただきながら進める。

項目	内容
	・ 三岐鉄道㈱ 伊藤執行役員鉄道部長 三岐線・北勢線ともに収入は前年比約101%と微増した。内訳は、三岐線では定期収入が増加し、北勢線では定期外収入が伸びている。北勢線では回数券の廃止とICカード導入の影響が大きく、定期外利用が増えたことが収入増につながっている。北勢線の収入は過去2番目の高い水準。ICカード利用率は90%を超えており、養老鉄道の75%という数字は取組み次第で伸ばせる可能性を感じる。昨年度、特に伸びたのは運輸雑収で、北勢線では「北勢線謎解き旅」、JR東海を中心とした「JR東海&17私鉄 乗り鉄☆たびきっぷ」など、企画乗車券の発行が収入増に寄与した。三岐線でJR東海の車両を導入するなど、大手鉄道会社が地方鉄道を支援する流れが生まれており、積極的に連携していきたい。地域公共交通計画は非常に素晴らしい内容だと感じた。実現すれば、全国の地方鉄道のモデルケースとなり得る。その計画に三岐鉄道も参加させていただけることを、大変ありがたく思う。 ・ 名阪近鉄バス㈱乗合バス 山田営業部長 昨年度は、運賃改定の効果と利用者動向がどうなるかが大きな焦点だった。運賃を15%値上げしたが、利用者数は減少することなく、むしろ微増という結果だった。値上げした原資を活用し、運転手の処遇改善や人材確保に力を入れ、現在は運転手不足の問題は一旦解消しているが、高齢の運転手も在籍しているため、今後も担い手不足への対応は継続して取り組んでいく。最近の取組みは、ICカードの普及が進み、最終的には利用率が90%程度まで伸びると見込んでいる。一方で、高速バスではデジタルチケットの導入を積極的に進めており、クレジットカードやPayPayなど、現金を使わずに利用できる環境を整えている。特に、現金利用がほとんどなくなった名神高速線では運賃箱を廃止し、車掌が持つハンディ端末でレシートを発行する方式に切り替えた。若い世代はスマートフォンを活用して公共交通をストレスなく利用するため、デジタルを活用した情報発信や利便性向上を進め、定期外利用の増加につなげていきたい。成功事例や失敗事例など、参考になるような様々な取組みを始めている。 ・ 岐阜近鉄タクシー㈱ 高橋業務部長 タクシー業界では、キャッシュレス化がほぼ完了している。コロナ禍以前から続く乗務員不足が課題となっていたが、最近は若い世代の採用が進みつつある。今春には大卒の新入社員が運転士として入社予定で、女性の若手採用にも力を入れている。これにより、業界全体の若返りが進み、従来イメージされがちだった「横柄な年配運転手」のような印象も徐々に薄れていくのではないかと

項目	内容
	と考えている。まずは業界のイメージアップを図ることを重視し、今後も運転士に関する課題や意見があればいただきたい。養老鉄道に対して、タクシーとして協力できることは積極的に取り組んでいく。 ・㈱三交タクシー 内山代表取締役社長 三重県では3月に運賃改定を実施し、約2か月が経過した。改定率は10%程度だが、利用者の利用控えは感じられず推移している。業界としては安定した状況だが、燃料費の高騰には不安を抱いている。先月までは大きな値上がりはなかったが、今後どうなるか注視している。こうした状況下だが、本日も養老鉄道を利用して参った。これで四季を通じて沿線の景色を一通り楽しむことができたと感じている。今日は天気も良く、若葉が生い茂る中を移動でき、瑞々しい気持ちでこの地に来ることができた。少し早く到着したため、近くの八幡神社に立ち寄ったところ、市民の方々が湧き水を汲んでいる姿に触れることができた。こうした地域の風景に触れることができたのも、この会議に参加させていただいたおかげだと感じ、個人的に一年を振り返った。 ・スイトトラベル㈱ 石田タクシー事業部長 交通結節点の機能強化として、海津市と連携して駒野駅に実験的なタクシー待機場所を設置した。今後も連携を強化しながら、施策を成功させていきたい。 ・大垣南高等学校 種田校長 昨年度、大垣南高校に着任し、養老線を含む地域創生に関する会議にも参加させていただく中で、「何かできることはないか」と考え、今年度の4月から新たに、養老鉄道と大垣市役所のコラボによる「地域創生・利用促進」という探究活動に取り組んでいる。そのほかに、大垣市民病院と連携した「医療探究」、市町の教育委員会と連携した「教育探究」など、従来の教室内だけの学びには限界があるため、外部資源を有効的に活用し、学びの拡大と充実を図っていこうと考えている。 ・大垣市連合自治会連絡協議会 堀会長 自治会の立場からは、高齢者の免許返納が増えていく中、代わりとなる移動手段は公共交通になると思う。通学手段としても公共交通は必要なので、より便利で安全な形で公共交通の充実を進めていただきたい。今年の大垣祭りは晴天に恵まれ、新聞報道によれば21万人もの人出があった。こうした機会に養老線を利用して大垣へ訪れていただくことで、利用促進にもつながるのではない

項目	内容
	かと期待している。 ・イオンモール株式会社イオンモール大垣 中垣ゼネラルマネージャー イオンモール大垣には多くの高齢者や高校生のお客様にもご来店いただいている。公共交通、鉄道は非常に大事なものだと思う。将来像や基本方針、目標に向けて、少しでも協力していきたい。 ・イビデン株式会社 川崎経営企画本部副本部長 令和7年度予算の大半を投入した計画は非常に素晴らしく、特にPDCAの「P」の部分が大変わかりやすく、よく練られた内容だと感じた。次は「Do」で、効果を得る前にどのように実行していくかが課題になると思う。地域企業も「Do」の一端を担う立場にあり、地域への投資を継続することを決定しており、投資を続けることで働く人を呼び込み、その結果として公共交通機関の利用者も増えていくと予想している。公共交通を「使う」だけでなく、「使ってもらおう」ことで地域のにぎわいやまちづくりにどう貢献できるかを、地域企業として現地で、具体的に示しながら取り組んでいきたい。 ・大垣商工会議所 竹中専務理事 中心市街地の活性化という観点から、地域公共交通の活性化は非常に重要で、高校生の意見についても、注目している。高校生は固定概念にとらわれない新鮮な発想を持っており、観光を含めた大垣市のさまざまなチャレンジにおいても、非常に参考になる意見が多く出てきている。若い世代の意見を積極的に取り入れながら、地域公共交通の発展に貢献していきたい。 ・中部運輸局鉄道部 大野地方鉄道再構築推進調整官 養老鉄道は近鉄養老線の時代から利用させていただいており、桑名から大垣までの所要時間が1時間30～40分から1時間20分に短縮され、より利用しやすくなっている。行き違い設備の整備や新駅設置といった取組みによって、今後さらに時間短縮が進むという話も伺っており、今後も養老鉄道を積極的に利用していきたい。
会議資料	・席次表 ・会議次第 ・議題 資料No1～4 - 1、その他 資料No.5～6 ・規約・名簿